

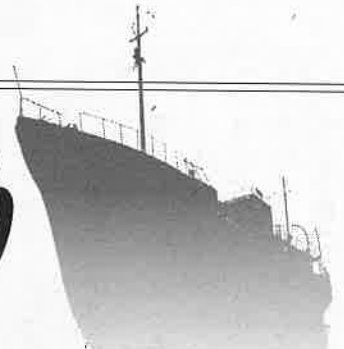
2012.03.01  
No.368

(3・4月号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

# 福竜丸だより



撮影・大津伴絵

## ビキニ事件の意味をあらためて 考えつづけ、明日への希望をつなぐ

―震災から一年にあたり―

水爆実験に被ばくして苦しんできたから、原発で被ばくの被害ができれば、同じことが繰り返されるといい続けてきたんです。いつか、また犠牲者がでると……第五福竜丸元乗組員・大石又七さんは、十数年前から講演のなかで、こう訴えつけてきました。

第五福竜丸平和協会による3・1ビキニ記念のつどいが二月二五日、第五福竜丸展示館にちかい夢の島マリーナ会議室で開かれました。大石さんにとっても、大震災での犠牲と福島原発事故で被ばくが広がることと直面しながら、自らの被ばく体験に照らしての証言を各地でつづけてきた一年でもありました。

「ビキニ被ばく者 核を問う」と題したつどいは、昨年NHKが制作し七月に放送された番組（ETV特集）「大江健三郎・大石又七 核をめぐる対話」（八九分）が上映さ

れました。NHKから放送文化研究所・東野真主任研究員があいさつしました。

大江さん、大石さん、ともに長年核と向き合い、それぞれの立場から発言しつづけてきたその想いを縦横に語り合い、最後に戦争、核、原発など甚大な被害と犠牲を生み出した国、組織、主導的な立場にあった人の責任の問題に言及しながら共感をひろげました。

つづいて元NHKプロデューサーの永田浩三さん（武蔵大学教授）を聞き手に、大石さんが自らの体験に根ざし語りました（2・3面に掲載）。

会場は、立ち見も出るほどの一六〇人が参加しメモを取りながら何度も頷く姿が見受けられ、終了後には、びっしりと書き込まれた感想文が多く寄せられました。また展示館の見学会も六五人の参加で、つどいに先立ちおこなわれました。

## 核・原発・被ばくのことを

## 真剣に考えてほしい

元乗組員 大石又七は語る。  
聞き手 永田浩三（文責・編集部）

永田 大石さんと大江健三郎さんの対談番組を企画したのは、三月一日の大震災の前でした。第五福竜丸、核の問題はもちろんですが、原子力の「平和利用」についても言及していただこうと制作関係者も思っていました。

原発事故が起こり、大江さんは原発をなくしていこうと積極的に発言されるようになりました。実は大石さんと大江さんは、対談で初めてお会いになったのですが、大江さんは、様々な集会で発言なさるとき、大石さんとの出会いから始めます。大石さんの存在の大きさを感じさせます。

「被爆者」でなくなった!

永田 大石さんたちは、二、三千ミリシーベルトの被曝をされたそうですが、日本政府のいわゆる法的な「被爆者」という概念の対象にはなっていないのですよね。

大石 私たちは現在「被爆者」として認められていません。

それは、事件後九カ月で日米政府間での合意により政治決着がおこなわれ、私達にだけ見舞金が出て、これで事件は解決したことにされてしまったのです。

その後、仲間がガンなどで一人づつ死んでいきました。援助も補償もありません。「原爆手帳」も受けられませんが、半世紀以上そのように扱われてきたのです。ですから私はそれへの「恨み」で話をしているのです。

「内部被曝」という問題

永田 アメリカは、キャットスルシリーズという核実験で六回水爆を爆発させました。その一回目のプラボーが三月一日、規模が一番大きく、サンゴ礁が砕け、放射能を帯びて



第五福竜丸に舞い落ちてきました。その汚染の中で焼津港にたどり着くまで、内部被曝をしていったのですね。

大石 広島・長崎の被爆者に関して内部被曝は調べられていないんです。そういう研究もなかった。ビキニの被曝の「資料」がきつかけとなり、内部被曝の怖さが知られるようになった。（\*編注・久保山無線長の解剖からも半年以上経ての内臓の被曝が記録されている）

福島の原発事故以来、内部被曝が問題視されてきています。長い年月かかって病気が

発症することが心配されています。

永田 福島の事故のあと、さかんに「直ちに健康に影響ない」と言われましたが、裏を返せばゆくゆくは影響があるかもしれないということも否定していいのですね。

大石 「原子カムラ」といわれる科学者が、原発事故にたいして半減期や健康への影響を発表していますが、私が、ロンゲラップの被爆者たち、あるいは私たちの経験から見えてきたこととまったく違っています。

仲間も二三人のうち一四人が亡くなっていますが、殆どがガン、とくに肝臓ガンや肝障害です。それも二〇年経ってからつぎつぎ亡くなった。

先月、「市民と科学者の内部被曝研究会」が発足しましたが、色々な提言を政府にもしようとしています。

永田 こうした事実について、公の機関は目をそむけてきたのではないのでしょうか。内部被曝を含め、半致死量近い線量でも健康被害を無視しようとしている。

許容線量という考え方がありますが、これを悪用して原

発を推進し核兵器を開発する道を開いてきたのではなでしょうか。大石さんのように健康被害を憂慮する立場とそういう勢力のせめぎ合いの五〇年だったように思います。

隠されたビキニ被ばく

永田 五四年三月にビキニ事件が起こりますが、この一月前に初めて、広島・長崎の被爆者の基礎調査が始まります。三千人を調査対象にしますが、そのうち千人余が治療を希望しています。身体の場合が悪かったんですね。

大石 私たちは一年二カ月の入院のあと退院します。ただしこれは完治したということではなく、事件を終わらせるためだったと後になって判ってきました。

第五福竜丸の被災、全国的に広がった放射能汚染により、爆発的な反核運動が起こりました。この世論を沈めなければと、アメリカの圧力もあり、マグロは安全だとか、漁にでも大丈夫だとか、いろいろなうそがでています。アメリカは「国際法に違反しない」（3めん上につづく）

「自由主義世界を守るための実験だ」といい、一切補償しないと言います。こうしたなかで、「被曝したかもしれない」といえば差別と偏見にいい、家族にも降りかかることにならぬ。何とか働けるから、みな口をつぐんでしまったのです。内部被曝の究明もあやふやにされてしまったと思います。そしてビキニ事件を知らされない、伝えられないようになってしまった。

#### だれが責任をとるのか

大石 原発の事故がおきてとにかく大参事なわけですから、その対応に全力を挙げてほしいと願いました。一方で、根本的な責任を突き詰めるということがなされていない。「ビキニ事件」でも今回の事故でも、責任をとる人がいるはずで。

原発導入にはアメリカも大きく関わっていますけれど、中曽根康弘さんをはじめ政治家も経済界もメディアもござって「原子力の平和利用」といいました。正力松太郎さんは、宣伝役を買って出て、「平和利用」エネルギーを打ち出

さなければ、原水爆に反対する運動をつぶせない、というようなことまで書いています。

永田 三月一日の大石さんたちの被曝の翌日に原子力開発のための予算が提案されるのです。三億円です。そのうち二億五六〇〇万円が原子炉関係。同じ頃、広島・長崎の被爆者のための治療研究費の予算は一〇〇万円ついただけです。

被爆者の健康被害のSOSが出ていたにもかかわらずです。むしろ過小評価して少々の被曝は大丈夫だとしてきたんだと思います。

#### 仲間たちの悔しさバネに

永田 大石さんは最初のお子さんを出産で亡くされるといふ経験をなさいました。偏見や差別にもさらされながら、でも声高に叫べば自分だけでなく家族や周りにも影響が及ぶというなかで、証言し、ご本をお書きなつてきた。

大石 被曝とその影響というのはとても分かりにくいですね。大丈夫だと言われれば反論できません。被爆者だから、

という周りの目も常にあります。

だから言いたいことも言えずに我慢して死んでいきました。私はそれをずっと見ていた。しかも私もガンを患いました。いよいよ番が来たと覚悟しました。幸い手術で治り、いまは、いろんな病気をかかえています。悔やんで死んでいった仲間の分もきちんと伝えて、被爆者とはこういうものだと思えていきたくいですね。特に国に……。

話すようになりいろいろなことが分かってきて、ますます誰かが言わなければという気持ちです。子どもの事は大変なショックでした。被爆者特有の体験をして、これは私だけの問題ではないと思うようになったのです。ですから原発のことも、それがあの上被曝の可能性を背負っている。怖い放射能を放つ原発をどうすべきなのかということ。をみんな真剣に考えていきたく願っています。

\*編注：本稿では、広島・長崎の原爆被害者及び核実験被害者を「被爆者」と表記しています。

### 3・1ビキニ記念のつどい参加者の感想

◇長い間、大石さんの話を直接うかがいたいと思っており、念願がかないました。日本社会のマスメディアの偏重報道や日本人のあいまいさをよしとする性質、体質にあらためて大きくうなづき、苦笑しました。自分の中にもあるその気質を情けなく、心していかなくてはと思えました。(50代 女性)

◇「あいまいな日本人よ！目を覚まして、悪いことは悪いことを。忘れてはならないことは忘れないで」といつづけた。社会的な活動は署名をするぐらいですが、目をそらさずにつづけていきたいと思っています。(10代 男性)

◇大石さんは同年なので非常に共感しました。大学三年生の時に「郷里運動」というのがあって、ビキニ事件のパネル展示を街頭でやったのが私の反原爆運動の始まりでした。大石さんの元氣な姿をみて安心しました。(70代 男性)

◇被曝によって今日まで不安や苦しみを感ずることが多々あったことをうかがい知ることができ、貴重な体験でした。なぜ自分たちは核実験で被曝しなければならなかったのか、政治的決着、幕引きを図る日米両政府の対応など、矛盾と疑問、憤りが大石さんを証言へとつきうごかしているのだと実感しました。(10代 男性)

◇日常の言葉づかいで淡々と事実を語る大石さんの話の内容のものがすごさをあらためて感じました。伝統的な支配者の統括的、すなわち隠蔽工作という悪知恵に言葉が失う怒りを覚えます。人類が制御不可能な核への安全神話との戦い、欺瞞が公にされることは不可避であると思えます。(60代 女性)

◇事実を覆ってしまった政治

## 西脇 安さんの第五福竜丸調査と 米国への手紙

山崎正勝

今年の一月初めに共同通信の配信記事「ビキニ水爆実験、「除染方法を」米に手紙」が、新聞各紙に掲載された。手紙を書いたのは、当時、大阪府立大学の助教だった故西脇安さん（元東工大・ウィーン大学名誉教授）だった。

西脇さんは、『読売新聞』が第五福竜丸の乗組員二三名の被曝をスクープした一九五四年三月一六日、大阪から夜行列車で焼津に向かい、放射能の測定を行った。

問題の手紙は、翌日の一七日に出ている。宛て先は米原子力委員長で、放射性物質に含まれる核種と、その除染法などを問い合わせている。手紙のコピーは、ラスベガスにある核実験博物館に展示されていた。西脇さんは、他にも米国に公開の質問状を送ったが、返事はいつさい戻ってこなかったと言われている。

### ビキニの被害を伝えるメモ

もう一つ、西脇さんに関係した記事が一二月二九日の『東京新聞』に掲載された。西脇さんの「ビキニの灰の分析に関する未公開データ」と題した英文でタイプされたメモが、ケンブリッジ大学のチャール・カレッジの文書館で発見されたのだ。このメモがあったのは、一九九五年に科学者の平和運動、パグウォッシュ会議の活動によってノーベル平和賞を受賞したジョセフ・ロートブラットの文書で、豊田市在住の科学史家、

奥田謙造さんによって発見された。

西脇さんは、ビキニ事件の年の六月末から四カ月間、大阪の原水爆禁止運動の財政的な支援を受けて、当時の夫人のジェーンさんとともにヨーロッパに渡り、ビキニの水爆の被害を伝え歩いた。訪問先は、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、フランスなどで、イギリスでは議会で報告を行った。この間、ベルギーで開かれた放射線生物学の国際会議で、イギリスのジョセフ・ロートブラットに出会った。今回発見されたメモは、このとき西脇さんがロートブラットに渡したもののようだ。

ロートブラットは、西脇さんから得たビキニ水爆の放射能の情報から、爆弾が放射能を強化した3F爆弾だったことを、はじめて突き止めた（昨年五月の『福竜丸だより』に載った小沼通二さんの「西脇安さんとビキニ水爆」を参照）。

### 西脇さんの焼津での活躍

ロートブラットは、西脇さんに英国科学者連盟の機関紙に報告記事を書くよう依頼



Auf seiner Europareise hält sich der japanische Bio-Physiker und Atomwissenschaftler Professor Dr. Yasujiro Nakazawa in der Hauptstadt auf. Professor Nakazawa hat jahrelang in seiner Heimat und besonders auf dem Atomi-Atoll die Auswirkungen der Atom- und Wasserstoffbombenexplosionen erforscht. Nach immer, so sagte der japanische Wissenschaftler, werden in seiner Heimat radioaktiv genessene Fische gefressen. Die Gefahren für die Menschheit, besonders durch die Atomkraft, seien außerordentlich groß, das sollten die vielen oft hungernden erkrankten Menschen in Japan, von denen die Wissenschaft noch nicht sagen könnte, auf wieviel Generationen die Krankheitskette vorerbt werden könnten.

自然放射能の百倍から千倍の異常な放射線が検出された。

し、一月に「ビキニの灰」と題して公表された。記事のはじめの部分には、西脇さんがビキニ事件を知った様子が生きいきと語られている。

『読売新聞』の福竜丸の記事が出た三月一六日、西脇さんが大学に着くとまもなく、大阪中央市場に福竜丸が持ち帰った魚が来ているので、放射能の調査してもらえないかと、大阪市から調査依頼が来たという。すでに事件から2週間も過ぎているので、広島と長崎の原爆の経験から、それほど放射能はないと西脇さんは考え、弱いベータ線を計る装置を持って市場に出かけた。

中央市場に来ていた他のグループは、医学用のX線（ガンマー線）の測定器を使ってきたため、魚の汚染を検出できなかつた。西脇さんが、ベータ線測定器で計ってみると、

一七日に焼津に到着した西脇さんは、第五福竜丸からは大阪の魚にはなかつた強いガンマー線が出ていたのに驚かされた。白いチリ（死の灰）は甲板の上からはすでに除去されていたが、それでも強い放射線が観察されたので、元の放射線量は大変なものだったに違いない。

調査中に使ったマスクのガーゼからも、放射線が検出された。このことから西脇さんは、乗組員たちがチリ状の放射性物質を吸い込み、水や食物からもそれらを摂取したと判断した。西脇さんは、漁民の健康を懸念し、その直後に米原子力委員長に宛てた手紙を書いたようだ。

手紙は毎日新聞静岡支社の便せんに書かれている。一八（5めん下につづく）

54年10月、  
ハンブルグの新聞記事



焼津・サメの検査（西脇資料）

## 科学者として原水爆禁止に 尽力された服部学さん

第五福竜丸平和協会代表理事 川崎昭一郎

第五福竜丸平和協会の理事、顧問を長く務められた

服部学さんが本年一月一日肺炎で亡くなられました。85歳でした。仙台市出身、一九四七年に東京大学理学部物理学を卒業されています。

私が東京大学理学部物理学科の学生とき、服部さんはすでに東京大学の助手として



03年7月夏休み教室での服部さん

学生を指導する立場におられました。

一九五四年三月一日のビキニ水爆実験による第五福竜丸被災事件の際、私は四月から理学部学生自治会の委員長としてこの問題に真正面から取り組みましたが、服部さんはいつも明るい顔で、教職員の立場から私たちを暖かく見守り、貴重なアドバイスを与えて下さいました。

私は学部学生、大学院生の時期を通じて原水爆問題に強い関心を抱き科学者の社会的責任の自覚に燃えて、学内及び学外の原水爆禁止運動に参加し、その中で様々な分野の先輩科学者と知り合うようになり、指導を受けました。とりわけ服部さんは同じ物理分野の先輩学者として非常に気安く付き合うことができました。

各種の原水爆禁止や平和に関するイベントを行うときは

対外的な代表、責任者は服部さんが引き受けられることが多く、その際は服部さんの補佐役、事務局長を果たして参りました。

「原水協専門委員会」「原水爆禁止科学者会議」「核兵器禁止を願う科学者フォーラム」「被爆三〇年国際フォーラム」「NGO被爆問題国際シンポジウム」など組織名を挙げていくと、服部さんと一緒に仕事をしたことが次から次へと走馬灯のように懐かしく思い出されます。

私は、三宅泰雄、猿橋勝子、武谷三男、草野信男、江口朴郎さんなど大先輩と個人的にも親しくさせて頂いたいたことも多くなり、そのようながりの中で服部さんとは長い期間にわたって何でも相談し合い本当に気持ち良く活動ができました。

ビキニ被爆の証人、第五福竜丸の保存に関しても早い時期から一緒に仕事をさせて頂いたいただきました。

一九六八年四月六日夢の島で行われた「第五福竜丸を見る都民の集い」では科学者代表として服部さんは颯爽と

した姿で、一九五四年三月一日ビキニ事件の発生とほぼ同時に原子力予算可決がなされたことの重要なつながりを鋭く指摘されております。

一九六九年三月二二日に放送されたNHK放送記念日ドキュメンタリー「廃船」（工藤敏樹制作）でそのときの服部さんの映像と音声を紹介されています。今日の福島を示唆しているようです。

服部さんは一九八九年二月から二〇〇三年三月まで第五福竜丸平和協会の理事を務められました。理事を退任され、顧問に就任されてからも、二〇〇三年七月二四日「第五福竜丸で放射線を知ろう！はかるう！感じよう！」というテーマで第五福竜丸展示館において行われた夏休み教室で、小学生たちを前に第五福竜丸と放射線について分かりやすい話をされています。

このように服部さんは第五福竜丸に関しても、保存運動の初期から最近に至るまで私も第五福竜丸平和協会の事業に協力されました。

服部学さん、どうぞ安らかに眠り下さい。

日には大阪に戻っているのでも、その前の時間に便せんをもらって書いたのだろう。

西脇さんは、福竜丸の上甲板に行き、そこに残っていた灰白色の少量の粉（死の灰）を見つけた。乗組員の証言では、それが船全体を覆っていた。そこから西脇さんは、福竜丸には少なくとも「数百キユリー」（約一〇兆ベクレル）の放射性物質が降り注いだと結論した。この事実は、ロートブラット文書にあったメモに書かれていた。

ロートブラットは、ここからビキニ水爆から出た放射性物質の全量を推定し、爆弾が放射能強化爆弾だったことの一つの裏付けとしたのだった。西脇さんが亡くなったのは、福島原発事故の直後だった。西脇さんは、戦中に日本陸軍の原爆計画にかかわった人でもあった。広島・長崎、ビキニを経験した西脇さんが、福島原発事故をどうお考えになったのか、伺うことができなかつたのがまことに残念だ。（やまさきまさかつ／東京工業大学名誉教授）

# 林光さんと第五福竜丸

## 音楽は希望の羅針盤

池田逸子

「ねえ、何かやろうよ！」昨年五月、オペラ「変身」林光作曲、山元清多(台本)東京公演終了後の仕上げの場で林光さんが私に言った。東日本大震災および福島原発事故を言外に込めての「何かやろうよ」だと、すぐにわかった。「私もしたいのですが、ただ、支援、コンサートをすればいいということでもないと思うので」と私。「それはそうだよ、急いでやらなければならぬ」というわけではないからね」と林さん。

三月十一日から日を追う



ごとに明らかになる深刻な事態を前にして、私は絶望的な悲しみや苦難をのりこえて再生しようとしている人々(自分も含めた人々)が心の奥深いところで感じあえる音楽とは、どのような音楽か、私にできることは何か、と考え続けていた。原民喜のテキストをほぼ半世紀かけて作品化(「原爆小景」)した林さんは、当然、創造的な意味で深く考えていて、四月三日付の日経新聞紙上でも「届いた」ことが目で手で確かめられるものでない「届けもの」、つくる者、送り出す者が、時間をかけ手間をかけ渾身のちからで生み出して人々の精神にはたらきかける「もの」が、やがて必要になる、いやいまま必要なのだと思う。」と述べている。

だが、それを宿題として残したまま、林光さんは突然、逝ってしまった。

第五福竜丸展示館のコン

サートに林さんは三回、作曲と演奏とで協力した。そこで初演された「ラッキードラゴン・クインテット」は新藤兼人監督の映画「第五福竜丸」の音楽にもとづくピアノ五重奏曲。二楽章形式(第一楽章「出航」、第二楽章「曳航」として初演・披露された三年後に第三楽章「調和の海へ」が書き加えられ、あらためて完結版として全曲初演された。

二楽章版初演のさい林さんは、この曲がメタデータメタデータで終わらないのは第五福竜丸の運命がそのようなものだからだと述べ、第五福竜丸とともに私たちの希望が保たれることを心から祈っていること続けた(写真)。深い悲しみの響きをたたえた第二楽章のあとに来る第三楽章では、自然の調和を取り戻した海に船出し航行する、まさに希望の象徴としての第五福竜丸が、夢想され音化されている。

二〇〇一年に完成した「原爆小景」の最終章「永遠のみどり」の自筆譜冒頭にはドイツの哲学者エルンスト・ブロッホの「希望は裏切られることがあるか？」という問いかけがドイツ語表記されている。二〇一〇年作曲のピアノ曲「希望」のプログラム・ノート(長崎で志村泉が初演)で林さんはそのブロッホの問いかけを紹介し、さらに次のように記している。

「ブロッホはつづけて言う。希望は裏切られる、何度でも裏切られることによって、希望は確かなものになって行く。私たちは、裏切られ、試され、そのたびに根拠づけられたものとなる「希望」に鼓舞され、道を示され、ひと所に安住することなく、そのたびに限界を踏みこえて行く。」

一昨行われた三回目展示館コンサートは、一九八〇年から毎夏開催されてきた「林光・東混 八月のまつり」に做った展示館版で、「林光・東混 五月のまつり」とも呼べる内容であった。「原爆小景」の抜粋(第一章「水ヲ下サイ」と終章「永遠のみどり」)をはじめ、そこでうたわれた歌の数々は、

鎮魂と平和を希求する祈りとなって第五福竜丸に積み荷され、世界のヒバクシャとの連帯に向かつて船出した。

だが私たちが託した希望は、それから一年も経たないうちに大震災と福島原発事故によって、またもや裏切られてしまったのである。

「永遠のみどり」ほか、自作の合唱曲、劇音楽、ピアノ曲をモチーフにした四つの断章から成るピアノ曲「希望」には、おそらく大方の予想を裏切る、険しい不協和な響きが随所に聴かれる。祈りの声は阻まれ、差し込む光は遮られ(でも沖繩の調べと躍動するリズムとが、ためらう希望の背中を押ししている)。まるでフクシマを予測していたかのようなこの曲は、林さんの炯眼、芸術的想像力が発した警告のように聴こえる。

音楽で希望をうたうこと、音楽は「調和の海」をめざす希望の羅針盤。次世代に手渡すまで、決してあきらめずにうたいつづけること。遺された作品には林さんの思いがぎゅぎゅ詰まっている。(いけだいつこ/音楽評論家)

連載⑬

晴れた日に  
雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

第五福竜丸展示館前庭の海側に船の「エンジン」が展示されています。ここには次のような触知図・案内板が掲げられています。

「このエンジンは昭和二九（一九五四）年三月一日に太平洋のマーシャル諸島にあるピキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって被害を受けた「第五福竜丸」で使用されていたものです。

「第五福竜丸は、昭和四二（一九六七）年に廃船になりましたが、エンジンは、奥地寿太郎氏に買い取られ、同氏所有の「第三千代川丸」に取り付けられました。

その後、同船は、昭和

四三（一九六八）年七月に三重県熊野灘沖で座礁・沈没し、エンジンは海中に没しました。

平成八（一九九六）年二八年ぶりにエンジンが海中から引き揚げられました。

東京都は、エンジンの寄贈を受け、第五福竜丸展示館のこの地に展示しました。

平成一二年一月

エンジン保存にご協力いただいた方

・杉末廣氏 ・「第五福竜丸エンジン」を東京・夢の島へ」  
和歌山県民運動 ・「第五福竜丸エンジン」を東京・夢の島へ」  
東京都民運動

被災後の第五福竜丸は国が買い上げ、放射能の減衰をまっして東京水産大学の練習船「はやぶさ丸」に改装されて使われました。六七年に廃船処分、払い下げを受けた業者は船の金目のものを売り払いました。エンジンなどを抜かれた船は、痛ましい姿のまま夢の島の海面に放置されることになりました。

あの船は「第五福竜丸だ」、  
「ピキニ被災の証人としてこの船を保存しよう」——保存

運動が立ち上がり、都立・第五福竜丸示館実現に至る道筋が付けられるのです。

\*

「七月末、われわれは奥地船長から電話を受けた。東京から機械油をドラム缶で千本積んで航行していた千代川丸は、三重県南牟婁郡阿田和沖で濃霧のため座礁、沈没を避けるため砂浜に乗りあげた。

——その夜、台風が来た。船体は一晩でバラバラになり、エンジンは水中に没した」。

エンジン沈没を伝えるNHKドキュメンタリー「廃船」のナレーションです。

「廃船」は、NHK放送記念日特集ドキュメンタリーとして六九年三月二日に放送されました。八〇分の長尺の記録は、廃船処分後の経過を縦糸に、福竜丸乗組員のその後、福竜丸保存市民運動を追い、運動体の対応のほどかしさをにじませながらも、保存の動きを好意的に伝える出色のドキュメンタリーでした。

\*

案内板に記載の「エンジン保存にご協力いただいた方」の、個人名の杉末廣さんは和

歌山県海南市に住む市民。和歌山県古座町で進水した「第五福竜丸」のエンジンが近くの海に沈んでいることを知り、エンジンを船体と再会させた

という、杉さんの強い思いが、九六年一二月、エンジンの引き揚げを導いたのでした。

「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ」和歌山県民運動が、九七年三月よびかけら、原水協、原水禁、労組、婦人団体、生協、市民が参加しました。エンジンは和歌山城公園や生協店舗の駐車場などに展示、東京の受け入れを待ったのです。

一〇月、「第五福竜丸エンジン」を東京・夢の島へ」東京都民運動が三市民団体のよびかけで発足します。都民運動は、エンジンを第五福竜丸展示館敷地に保存・展示する陳情を東京都に提出します。

九八年二月一三日、青島幸男都知事が受け入れを表明します。待ちかねたように二〇日、エンジンは大型トレーラーに積まれ和歌山市を出発、三月一九日都庁前で「和歌山県民運動」から、青島都知事に贈呈目録が渡されます。

その後エンジンは、東京都

により腐食の洗浄、錆止めなどの処置が施され、九九年一二月展示建物も完成し、二〇〇〇年一月に公開されました。

一月二日、「第五福竜丸エンジンお帰りなさい集会」が開かれました。「お帰りなさい」寒風を衝き参加者に幾度もの唱和をうながす田中里子さんの声が響きました。

一八日には、東京地婦連・緑の銀行「八重紅大島桜」の記念植樹も行われ、エンジンを迎えました。

\*

「海に沈む前のエンジンの解体シーンを私の夫は記録し、田中さんは海底から引き揚げられたエンジンを東京に運び、私はその『都民運動の記録』を水越雅子さんとまとめた」〇七年五月三十一日に亡くなった田中里子さんを追悼する文集「田中里子さんへの手紙」に載る、工藤爽子さんの文の一節です。文中の「夫」は「廃船」を企画・構成、編集した工藤敏樹さん。水越さんは東京生協連常任委員でした。（やまむらしげお／第五福竜丸平和協会顧問）

### ドイツの研究者が来館

2月9日午後、ドイツ産業技術博物館のフォルカー・キースリング博士が来館しました。氏は、東京文化財研究所のシンポジウムに出席のため来日、同研究所の近代産業修復室長の中山俊介氏の案内で展示館を訪れ、まずエンジンの展示を見学、28年間海中に没して劣化が進行する状況について、説明をうけ、さらに船内の状態についても当館学芸員の案内で見学しました。氏は、このような木造船が保存されていることは意味深い、と感想を述べていました。

### 日曜美術館で

#### ベン・シャーン展の紹介

アメリカの画家ベン・シャーンの大規模な作品展が、昨年12月3日から1月29日まで神奈川県葉山町の県立美術館で開催されましたが、その紹介がNHK日曜美術館で1月8日と15日に放送されました。

番組では、葉山の美術館を脚本家の山田太一さんが訪れシャーン作品をたどりながら解説しました。また、展示館にある第五福竜丸を映し出すとともに詩人のアーサー・ビナードさんが甲板に於て、絵本『ここが家だーベン・シャーン』(集英社刊)を朗読、シャーン作品と向き合いながら絵本の詩文を創作したいきさつを話しました。

展覧会には、第五福竜丸の被ばくを描いたラッキードラゴン・シリーズの彩色画2点と素描8点なども出品されています。放送後、展示館には番組を見たという来館者が多数訪れました。

今回の「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト展」は、名古屋市美術館(2月11日～3月25日)、岡山県立美術館(4月8日～5月20日)、福島県立美術館(6月3日～7月16日)にて巡回展示されます。

### 4月7日にお花見平和のつどい

2001年4月にはじまった「お花見平和のつどい」が、今年は4月7日(土)に開かれます。

つどいは、第五福竜丸のエンジンを夢の島へ・東京都民運動のとりくみの終了を受けて発足した第五福竜丸から平和を発信する連絡会が開くものです。(7面に関連記事)

エンジンの展示実現を記念して東京地婦連は、八重紅大島桜を植樹しました。これを受けて「つどい」は、桜の花の咲くころに集おうと今年で11回目を迎えます(昨年は東日本大震災をうけて中止)。

今年は、東京の被爆者の会(東友会)、地婦連、生活協同組合がそれぞれの平和のとりくみや戦争の経験などについて発表し、協会からは、展示館を訪れる児童生徒たちの声を中心に第五福竜丸から伝える模様を報告します。

また連絡会に参加する主婦連、都地消連、東京原水協からも取り組み報告がおこなわれます。

### ビキニ水爆の被害をたどる

#### TVドキュメンタリー

ビキニ水爆実験は、3月1日から5月半ばまで6回おこなわれ、広大な海域のみならず、成層圏まで吹き上げられた放射性物質は北半球を地球規模に汚染しました。

これにより、第五福竜丸のみならず多くの漁船が汚染魚を捕獲し、中には降灰や閃光を見た船もありました。こうした漁船の乗組員の被害を長年追いつけた高知県の山下正寿さん(高知県太平洋核実験被災支援センター)を軸に、元乗組員の証言と南海放送のディレクター自身の米軍文書などの調査により構成されたドキュメンタリー「放射線を浴びたX年後」が1月29日の深夜、日本テレビ系列で放送されました。

昨年3月に発生した福島原発事故を契機に、改めてビキニ水爆、一連の核実験による被ばくの広がりや人への被害をたどり、事態の解明と解決を促しています。

## 第五福竜丸展示館コンサート

### 明日へ…希望をたもちつづけるために

5月13日(日)午後4時30分より

第五福竜丸展示館内

指定席2500円 高校生以下1500円

※チケット予約はFAXかEメール、ハガキにてお申し込みください。  
チケットと入金用の紙を郵送します。

出演 寺嶋陸也・ピアノ 室坂京子・ピアノ  
水野俊介・コントラバス 青木美佐子・うた

未曾有の震災、フクシマへの想いを、核なき世界、平和への希求と明日への希望をつないで第五福竜丸のもとで演奏されます。

-----  
\* 4月24日から、第五福竜丸建造65年とラッキードラゴンの軌跡と題して、第五福竜丸の歴史をたどり、第五福竜丸にリスペクトして現代アーティスト・ヤノベケンジ氏の作品の展示企画をおこないます。